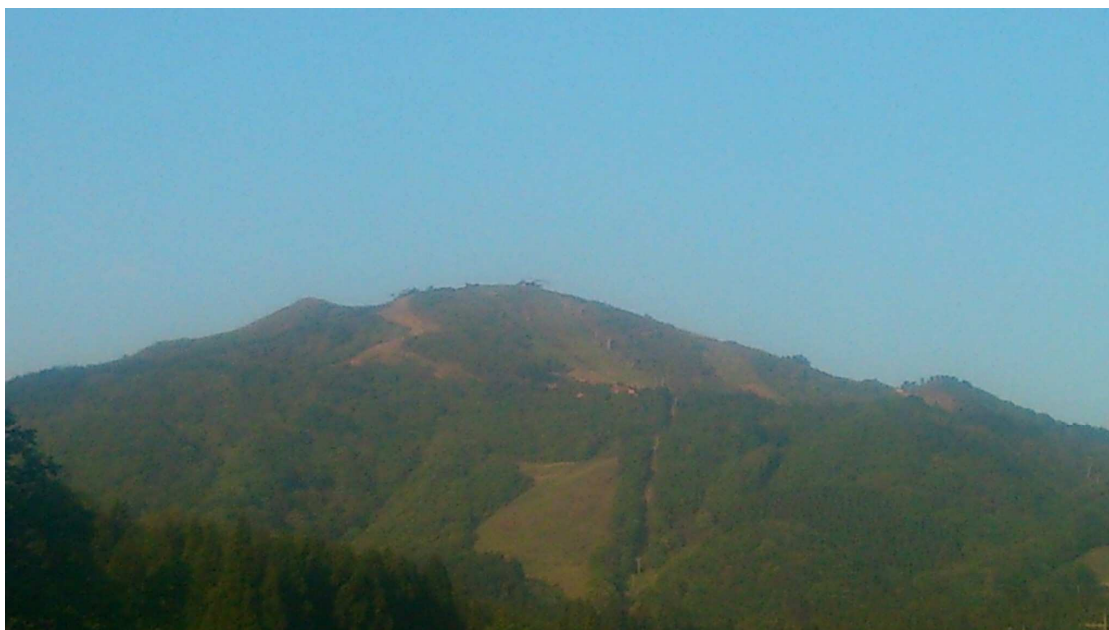


2014 年度

環境活動レポート

(2014 年 5 月 1 日～2015 年 4 月 30 日)



報告日：2015 年 6 月 20 日

株式会社 **西村工務店**

1. 事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社 西村工務店
代表取締役 西村 昌樹

(2) 所在地

[本社] 兵庫県美方郡香美町村岡区福岡 17 番地
[森脇倉庫] 兵庫県美方郡香美町村岡区森脇 192 番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 加藤 一郎 (代理者 西村 昌樹)
EA21 事務局 亀村 里美
連絡先 電話 0796-96-1136 F A X 0796-96-0832

(4) 事業活動内容

建築工事業、土木工事業

(5) 事業規模

年間売上高 9 億 9,964 万円 (2014/29 期、前年 14 億 1,017 万円)
従業員数 18 人 (2014.5.1 現在、前年 18 人)
床面積 1937.96 m²

(6) 建設現場等の概要 (2014 年度)

建築工事 182 件 (前年 203 件)
土木工事 86 件 (前年 69 件)

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1) 株式会社 西村工務店の建設部門及びそれに付随する業務をその範囲とする。

(宿泊部門うづかの森は審査対象外：2017 年までに組み入れる)

(2) レポートの対象期間及び発行日は、表紙に記載。

3. 環境方針

株式会社 西村工務店 環境方針

当社は経営理念『快適で安心していただける環境づくり』のため、地球環境問題と事業の発展を調和させて持続可能な建設活動に努めます。

1. 建設工事に伴う環境負荷（二酸化炭素排出量を含む）の低減に努めます。
2. 建設廃棄物を低減するためのリサイクル活動およびグリーン購入を推進します。
3. 関係する環境法規及び地元との協定を遵守します。
4. 生物多様性に配慮した事業活動を展開します。

本方針を全従業員及び協力会社社員に周知させ、社外へも公開します。

改訂日 2014年5月1日

制定日 2008年8月18日

株式会社 西村工務店

代表取締役 西村 昌樹

4. 環境目標とその実績、次年度取組内容

(1) 当社における環境目標と実績は以下の通りです。

No.	環境目標	基準年度	2014年度目標(5月～4月)	2015年度 目標	2016年度 目標
			2014年度通期実績(5月～4月)		
1-1	二酸化炭素排出量削減 (電力使用量の削減)	2009年度 10,757kg-CO2 (29,391kWh)	11,455kg-CO2 (22,200kWh)	11,400 kg-CO2 (22,100kWh) (‘09年度比23%減)	10,794 kg-CO2 (21,000kWh) (‘09年度比24%減)
			11,659kg-CO2 (22,683kWh)		
1-2	二酸化炭素排出量削減 (ガソリン車両燃費の向上)	2010年度 47.7%	達成台数率 51.0%以上	達成達成率 51.0%以上 (継続実施)	達成台数率 52.0%以上 (継続実施)
			Σ達成台数 93台/Σ全台数 177台 =62%		
1-3	二酸化炭素排出量削減 (軽油車両燃費の向上)	2013年度 51.4%	達成台数率 60.0%以上	達成台数率 61.0%以上 (継続実施)	達成台数率 62.0%以上 (継続実施)
			Σ達成台数 9台/Σ全台数 28台 =32%		
2-1	産業廃棄物排出量削減 (リサイクル率の向上)	79.0% (2013年度)	81%	82%	83%
			91%		
2-2	一般廃棄物排出量削減 (紙資源使用量の削減)	2011年度 85,000枚	72,700枚	72,500枚 (‘11年度比15%減)	71,300枚 (‘11年度比16%減)
			125,000枚		
3	総排水量の削減	2011年度 133m3	129.5m3	129m3 (‘11年度比3%減)	128m3 (‘11年度比3%減)
			201m3		
4	グリーン購入品目の増加	2010年度 4品目	13品目(うち新規2品目)	14品目 (‘11年度比7項目増)	15品目 (‘11年度比8項目増)
			13品目(うち新規2品目)		
5	FP住宅の販売棟数の増加	2010年度 0棟	1棟	1 (‘11年度比+1件)	2 (‘11年度比+2件)
			0棟		

(注1) 電力使用による二酸化炭素の排出係数を0.514kg-CO2/kwhとした

(注2) 達成台数率とは、当社が所有している車の全数から、それぞれの車に定められた目標値に対して、達成できた車の台数を除したもの(台数×測定月数)

(注3) FP住宅とは、FPコーポレーションが推進する高気密高断熱工法を用いた住宅のことである。

(2) 主な環境負荷

No.	環境負荷	単位	2014年度	2013年度	2012年度
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	181,459	220,202	257,677
2	一般廃棄物排出量	t	5.22	5.26	2.2
3	産業廃棄物排出量	t	532	833	396
4	総排水量	m3	201	161	165
5	エネルギー使用量	MJ	2,715,276	3,065,440	3,859,773
6	資源等使用量	t	6,015	5,942	13,453

5. 主要な環境活動計画、取り組み結果とその評価及び次年度の取り組み内容について

No.	環境目標	環境活動計画の概要	達成状況 (24/5～25/4)	評価	次年度の取り組み事項
1-1	電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの不使用时の電源オフ徹底 ・薪ストーブのフル活用 	目標：22,200kWh 実績：22,760kWh	未達成 (4%悪化) 冬季の暖房等に使用するエネルギーが多かった	<ul style="list-style-type: none"> ・電力量測定による実態把握
1-2	ガソリン車燃費の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・特に無駄なアイドリングを無くする ・エコカーの導入 	目標：51%以上 実績：52%	達成 ハイブリッドが3台になった	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドの導入
1-3	軽油車燃費の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・特に無駄なアイドリングを無くする 	目標：61%以上 実績：32%	未達成 (47%悪化) ドライバーの意識改革の必要があり	<ul style="list-style-type: none"> ・特に無駄なアイドリングを無くする
2	紙資源使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・PDF化の推進 	目標：72,600枚 実績：125,000枚	未達成 (41%悪化) 安易に印刷化してしまうこと原因	<ul style="list-style-type: none"> ・PDF化の推進
3	総排水量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに蛇口を閉める 	目標：130 m ³ 実績：201 m ³	未達成 (35%悪化) 漏水がある様子	<ul style="list-style-type: none"> ・漏水の原因究明
4	グリーン購入品目の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・購入前にグリーン品であるかどうかを確認する 	目標：2品目 実績：2品目	達成	<ul style="list-style-type: none"> ・購入前にグリーン品であるかどうかを確認する
5	FP住宅の販売件数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・営業訪問時に、必ず説明を行う 	目標：1棟 実績：0棟	未達成 営業努力が不足していたため	<ul style="list-style-type: none"> ・営業訪問時に、必ず説明を行う

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用される主な環境関連法規の遵守状況

下記の通り環境関連法規及び条例を事業所、建設現場ともに遵守しており、違反はありません。また関係当局より違反等の指摘も過去5年間ありません。

No.	法律名	遵守すべき要求事項	遵守状況
1	廃棄物処理法	産業廃棄物の運搬、処分は許可を受けた者が実施する。平成 23 年度より 1 年間集計し 6 月までに報告書を提出。	遵法
2	建設リサイクル法	発注者への計画等説明書（工事着手する日の 7 日前まで）と完了報告書。	遵法
3	建築基準法	確認申請書を提出して建築主事の確認を受け、確認済証の交付を受ける。	遵法
4	騒音規制法	作業開始 7 日前までに特定建設作業届を各市町村に提出。	遵法
5	振動規制法	作業開始 7 日前までに特定建設作業届を各市町村に提出。	遵法
6	河川法	1 日 50m ³ 以上の汚水を河川に排水する場合は河川管理者に届出書提出	遵法

(2) 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等に関して過去 5 年間に 1 件も発生しておりません。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション 21 の目標として掲げた 7 項目のうち、達成できたのは、2 項目であった。

車両入れ替え時には、積極的にエコカーの導入をすすめたい。

昨年度新たな目標として、産廃の取組がはじまったが、具体的な活動にまで落とし込めていなかった。建設リサイクル法においての所定品目は達成しているが、積極的な分別につながるような活動に落とし込んでいきたい。

エコアクション 21 の審査での指摘、指導が十分に活かされていない。（電力計の導入、実績を全員に周知すること）

少なからぬ審査費用を実際の経営改善につなげる努力をしていかななくてはならない。
マネジメントシステムが単なる絵に描いたもちになっていて、実際の経営改善としっかりとリンクするような取り組みにしていけないといけない。

【全体総括】

特に今年は、コミュニケーションという部分での課題を感じた。エコアクションは、身近に取り組める課題もあるが、それを長い期間にわたって、モチベーションを維持するためには、なぜこのような取り組みを行うのか、これが会社の経営にとってどのように好影響（悪影響）を及ぼすのかということを理解する必要がある。単に活動自体を命ずるだけでは創意工夫も出てこない。むしろ自らが考え行動することが、環境負荷を減らす経営につながり、会社の業績向上のみならず、地域への社会的な貢献や、生物多様性の取組に連鎖すると考えている。

建設業をとりまく状況は年々厳しさを増している。特に香美町の場合、消滅可能性自治体として指定されるなど、地方からの人口の流出は著しく、それらが、今後の企業活動に大きな影響を及ぼす。そういった中で、社会から信用される企業を構築できなくてはならない。エコアクションをマネジメントツールの中核にすえて、さらに『いい』会社を構築できるように、社員一丸となって取り組んでいきたい。

以上